

あ い ま い な  
森 ぐ ら し

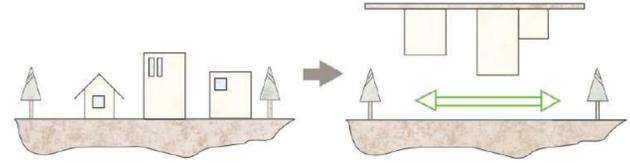
「森」とはあまいなものである。森の樹木間には境界はなく、噛み合うように重なり無秩序に広がる。広がることでできた森も町との明確な境界はなく、生き物の行動範囲もあまいだ。そこで森に溶け込み、自然と、動物と、共生していける住宅を考えた。自然の循環の中で人間の生活も循環していく、これからの森ぐらしを提案する。



敷地：宮城県黒川郡大和町宮床四辻 85-35 付近



形態ダイアグラム

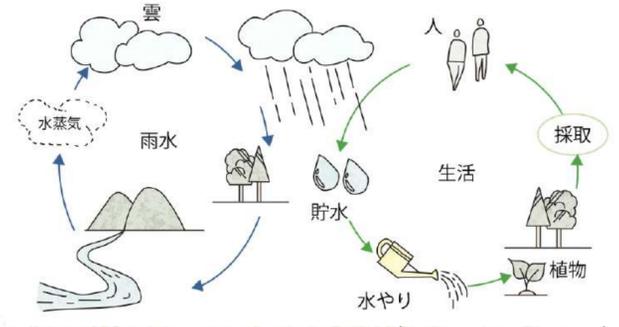


建物により境界がはっきり中と外が区別されている

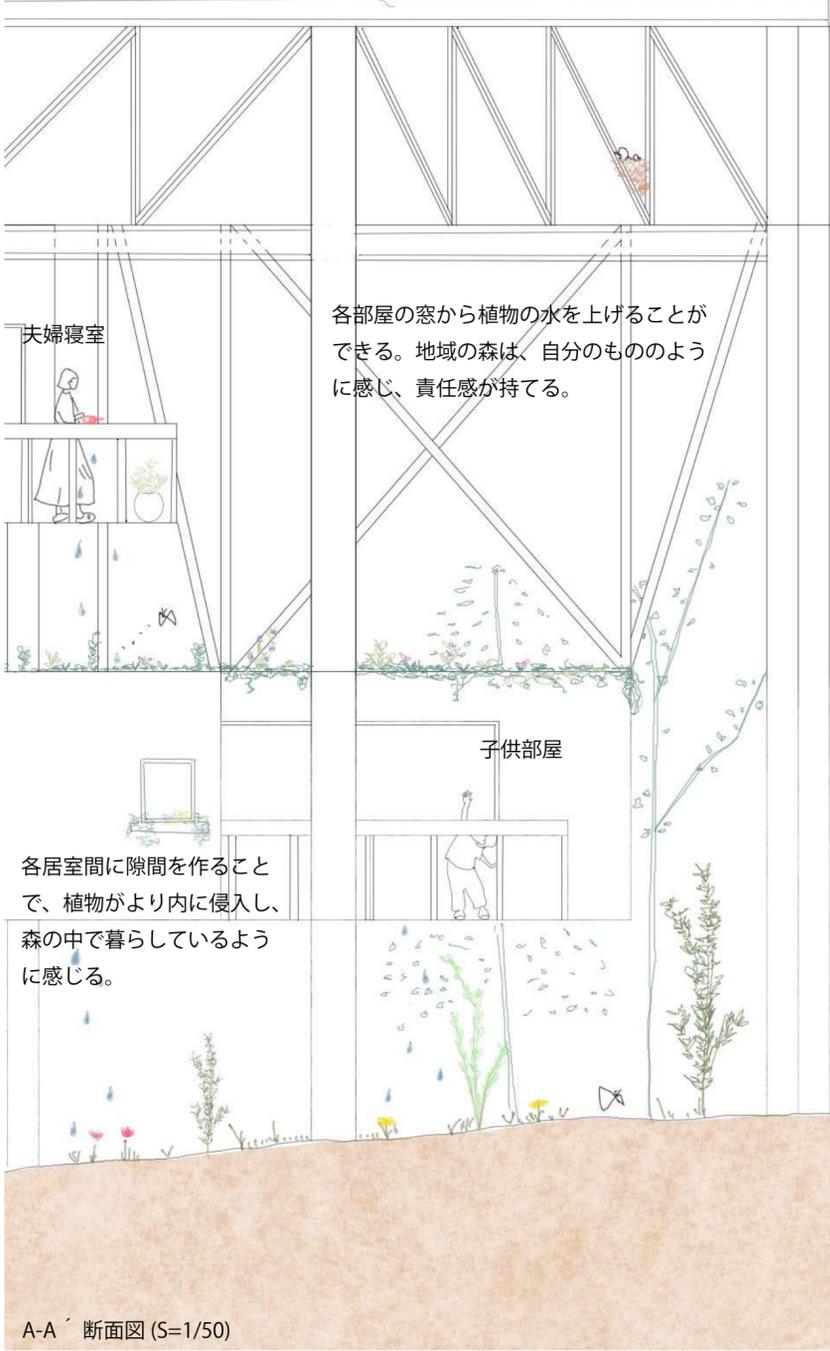
建物を浮かせて境目を曖昧にして外と共有

雨水のサイクル

人間のサイクル

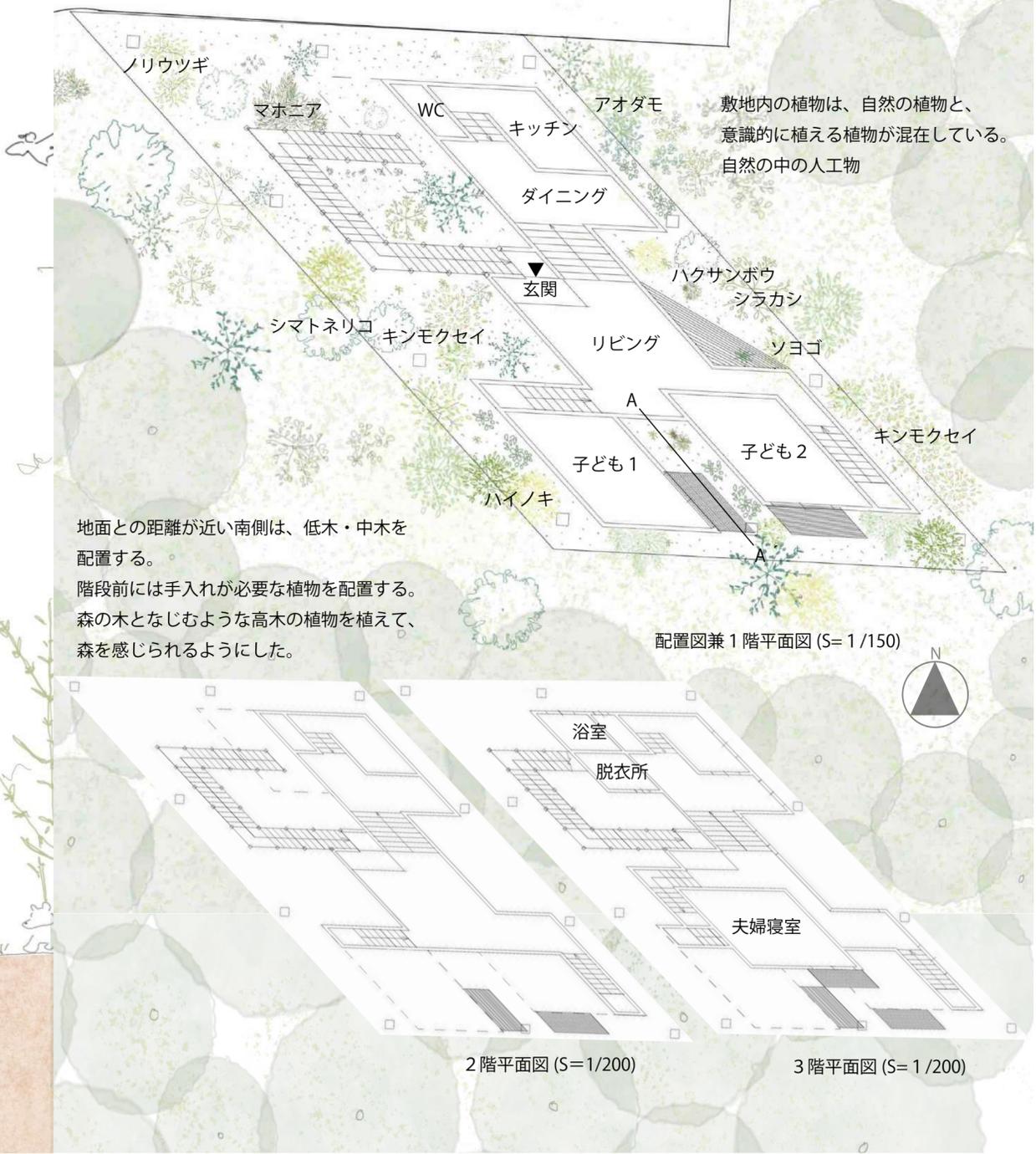


構造：吊り構造



各部屋の窓から植物の水を上げることができる。地域の森は、自分のもののように感じ、責任感が持てる。

各居室間に隙間を作ることで、植物がより内に侵入し、森の中で暮らしているように感じる。



敷地内の植物は、自然の植物と、意識的に植える植物が混在している。自然の中の人工物

地面との距離が近い南側は、低木・中木を配置する。階段前には手入れが必要な植物を配置する。森の木となじむような高木の植物を植えて、森を感じられるようにした。

2階平面図 (S=1/200)

3階平面図 (S=1/200)

A-A 断面図 (S=1/50)